



みしま No. 207 議会だより

令和7年2月発行

12月定例会

- 12月定例会のあらまし P 2
- 一般質問～議員が町政をただす～... P 4
- 三島町次世代の議会
～私たちの未来の三島町のために～... P12
- 議会の主な動き P18



12 月定例会のあらまし

12月定例会は12・13日の2日間開催され、専決処分承認1件、条例制定1件を可決しました。

予算は令和6年度一般会計補正予算及び4つの特別会計補正予算など、町長より提出された議案を審議し、すべて原案通り可決しました。

併せて、議員提出議案として「最低賃金法の改正と中小企業支援策の拡充を求める意見書」を可決し、意見書を国関係機関へ提出しました。

【可決結果一覧と条例改正等の主な概要】

議案 番号	議 案 名 等	結果
59	専決処分承認を求めるについて（令和6年度三島町一般会計補正予算） ・第50回衆議院総選挙に関する経費について、解散から公示までの期間が短かったことから補正予算を専決処分。	承認
60	令和6年度三島町一般会計補正予算	可決
61	令和6年度三島町国民健康保険特別会計補正予算	可決
62	令和6年度三島町介護保険特別会計補正予算	可決
63	令和6年度三島町簡易水道事業会計補正予算	可決
64	令和6年度三島町下水道事業会計補正予算	可決
65	職員の給与に関する条例の一部を改正する条例 ・県人事委員会勧告に基づき、給料月額を引き上げ、一般職員の期末手当を0.05月、定年前再任用短時間勤務職員及び会計年度任用職員の期末手当を0.025月、一般職員の勤勉手当を0.1月、定年前再任用短時間勤務職員及び会計年度任用職員の勤勉手当は0.025月引き上げる改正。	可決
66	令和6年度三島町一般会計補正予算	可決
67	令和6年度三島町国民健康保険特別会計補正予算	可決
68	令和6年度三島町介護保険特別会計補正予算	可決
69	令和6年度三島町後期高齢者医療特別会計補正予算	可決
議3	最低賃金法の改正と中小企業支援策の拡充を求める意見書の提出について	可決

【令和6年度12月補正予算の額】

(単位：千円)

会計区分	補正前予算	補 正 額	補正後予算
一 般 会 計	2,767,400	45,500	2,812,900
国民健康保険特別会計	180,135	8,806	188,941
介護保険特別会計	478,850	4,822	483,672
後期高齢者医療特別会計	38,984	522	39,506

【12月定例会の補正予算の主な内容】

■暮らし関係■

○障がい者自立支援給付事業	12,603千円
○町道補修（※地区要望）	2,200千円

■経済関係■

○三島町観光推進事業	1,640千円
------------	---------

■環境関係■

○地方公共団体情報システム標準化ネットワーク構築	5,500千円
--------------------------	---------



the most beautiful
villages
in japan

「日本で最も美しい村」連合

一 般 質 問

～議員が町政をただす～

12月定例会では4人の議員が一般質問を行い、町政全般について活発な議論を交わしました。（5頁～11頁に掲載）

一般質問議員		質 問 事 項	頁
1	3 番 菅 家 三 吉	美坂高原	5
2	6 番 大 竹 克 昌	グローバルピッグファーム柳津養豚場 三島町消防団	6
3	7 番 吉 垣 絵 梨 子	次年度の予算編成の方向性 働きやすい職場環境、組織編成	7
4	2 番 青 木 喜 章	令和7年度予算編成における重点事業 職員のコンプライアンス研修	9
5	5 番 河 越 昭 利	町職員不祥事及び懲戒処分	11

※一般質問とは…議員が町の将来に対する方針や、執行機関の政治姿勢を明らかにし疑問点等を質します。また、議員自ら政策の提言を行います。三島町議会では1人60分の持ち時間の間に質問答弁を行います。





菅家 三吉 議員

美坂高原

問 今後の美坂高原の運用をどのように考えているのか伺う。

①県の地域創生総合支援事業補助金が今年度で終了するが、次年度以降の美坂高原を活用したイベント等の開催はどのように考えているのか。

②シーズンを通じた活用の考えはあるのか。

③役場職員が美坂高原の事業を行うことは負担になる。民間での事業展開を視野に入れるべきでは。

答

町長

①次年度以降もこれまで同様のイベントの継続開催と併せ定期的な星空を見る機会の提供などを検討しており、美坂高原の魅力を最大限生かしながら交流人口の拡大に努める。

る。

②美坂高原は現在、編み組細工の原材料となる山ブドウ栽培や民間企業等で活用している。しかし、今後の取組として、イベント時に限らずシーズンを通じた星空観察とデイキャンプでも利用できるキャンプ場の常時利用を目指す。

③常時キャンプ利用や施設管理を見据えた場合、キャンプ消耗品の販売や物品の貸出し、夜間・土日祝日の対応などの課題が挙げられ、民間活力の導入はサービス向上と行政コスト削減の上でも必要不可欠と考える。

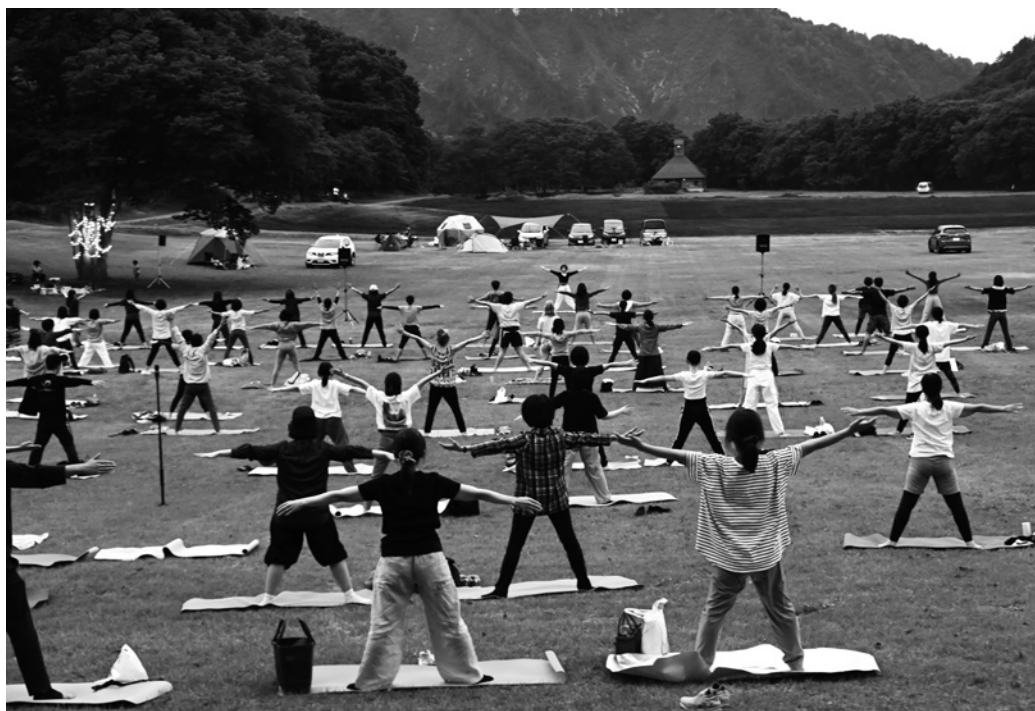
再質問

問 町は次年度以降の新たな補助金等の応募を検討しているのか。

答

地域政策課長

現在、交付金申請中であり、採択時期は令和7年1月で不透明である。



美坂高原でのイベント

問

仮に採択されなかった場合でも、イベントを開催するのか。

答

町長 補助金等を見つけて対応したい。

問

令和7年度以降の実設計画書の中で、美坂高原活用事業費が1千300万円となっている。内訳を伺う。

答

地域政策課長 美坂高原の維持管理費400万円、

イベント関係300万円、キャンプ場としての整備500万円、星空保護関係100万円。

問

既存のトイレや水回りの整備をどのように考えているのか。

答

地域政策課長 要望があれば改修を検討したい。

問

仮に指定管理者が美坂高原の業務を請け負った場合、現在の維持管理や山ブドウ栽培の業務委託を受けられるのか。

答

地域政策課長 美坂高原には条例があり、維持管理については業務として規定しているため問題はない。また、山ブドウ栽培については経験や知見がある者が関わることを前提として委託が可能と考える。



大竹 克昌 議員

グローバルピッグファーム柳津養豚場

問 11月に、松原地区において説明会が開催されたが、その内容を伺う。

答 町長 去る11月12日グローバルピッグファーム株式会社の代表と農場長が参加し、松原地区にて説明会を開催した。昨年度の説明会において、完全に臭いはなくなるとの説明だったが、依然として悪臭は収まらず、冒頭に代表から謝罪があった。臭いが収まらなかった理由として、「堆肥臭を抑えられれば解決すると思ったが、想定以上に堆肥臭が強かったため」とのことであった。

今後の対策としては、臭

気対策開始当初、効果が確認できなかったことから見送っていたオゾンによる脱臭が有効であることが判明したため、専門の業者と協力し、取り組める状況になったと説明があった。

再質問

問 議会議員に対し、説明会の日時等の通知がなかったが失念していたのか伺う。

答 町民課長 グローバルピッグファームの関係者との日程調整に難航し、急遽、説明会が決定した。議会議員に対する連絡は失念していた。

問 グローバルピッグファームの悪臭は、なかなか改善されない。業社との馴れ合いが生じることがないよう、また会議等の場では住民の苦痛を伝えていたきたい。

答 町民課長 悪臭に対する状況は承知している。柳津町で行われている会議

では本町の思いを伝えていく。

問 グローバルピッグファームは柳津町の誘致企業である。柳津町長と話し合いの場を持ち、業社に対し強い意見を言っていたいただきたい。

答 町長 柳津町長と話し合いの場を設ける。

三島町消防団

問 ①あと数年で消防団員の数が増え、高齢化が進み、機能別消防団員の方が増えると考え。行政として今後どのような考えをお持ちなのか伺う。
②消防団班員、機能別員に配付されている各器具、装備品等の配付年月日や耐用年月日を全て把握しているのか伺う。

答 町長 ①現時点で在籍年齢構成から見ると、激減することはないと想定している。しかし、新規入団者

がいない現状を見ると、将来的には機能別消防団員が増える状況になるのは間違いないと認識している。

しかし、機能別団員が増加することは決して悪いことではない。正規団員の減少を抑えつつ、事情により退団される方にはこれまでどおり機能別団員として活動していただくよう依頼していく。

今後、様々なご意見を参考にしながら、災害等に対応できる人数の確保に努めていく。

②器具・装備品の購入期日、耐用年数等は消防担当において把握している。特に消防ポンプや消防車においては年次計画を立て、機器の更新を計画的に行っていく。

再質問

問 現在、消防団と機能別消防団が別々に動いているイメージがある。消防団員退団30年の区切りをなくして、町の予算で対応で

答 総務課長 協議し、検討したい。

問 今からでも将来の消防団について話し合っていくかなければいけないと考えるがいかがか。

答 総務課長 議員ご指摘の通りと考えている。

問 ヘルメット、防火防護服についてはいかがか。

答 総務課長 確認していない。有事の際、危険な場所があるのは理解しているが予算的な部分も含め検討したい。

意見 消防器具、装備品の耐用年数確認、台帳整備は必需である。職員の引継ぎにもつながると考えるため早急に対応してほしい。



吉垣絵梨子 議員

次年度の予算編成の方向性

問 振興計画審議会や地区座談会等を通して、

様々な町民の意見を伺ったと思うが、町では現状の課題をどのように認識し、その課題解決、そしてよりよい町づくりのために、次年度予算をどのような方向で編成していくのか。

答 町長 12月8日に各課に次年度の予算編成方針を指示した。基本方針として、①公債費負担等による財政圧迫の状況が今後数年にわたって見込まれ、緊縮財政が求められることから、効果的かつ最少の経費による予算編成を行い、一般会計の総額25億円を超えない規模に抑制すること、

②全ての事務事業について例外なく見直し、現状把握、必要性、緊急性の検証を行い、効果の低い既存事業の廃止あるいは経費節減を徹底し、各課との調和、主体性と責任を持って、職員

の意思を踏まえ、町民の目線や思いに立ち、町民の福祉の増進や、地域活性化につながるかどうかを十分に検討することとした。

町民の皆さんの福祉の増進や地域活性化につながる事業展開と、本町が将来存続していくための人口減少問題に重点的に取り組んでいく予算編成を行う。

再質問

問 指針の方向性について

は、現状を踏まえた方針だと思うので、中身を伴った編成をしてほしい。効果の低い既存事業の廃止、経費の節減等を徹底することだが、予算編成に先立ち作成された3か年の実施計画を見る限り、事業の見直しがなされているよう

には思えない。実施計画作成時に、事業の精査はなされたのか。

答 町長 徹底的に全ての事業を見直すのは難しい状況である。

問 以前から提案があったと思うが、外部からの事業評価制度を取り入れる考えはないのか。

答 町長 外部からの事業評価も大事ではある。しかしそういった意味では、地区座談会や外部評価の要素が大きいと考えられる。

問 地区座談会や振興計画審議会は、町民の考えを聞く大変意義深い場であるが、事業の見直しについて、その視点に立って話し合う場を設けるべきである。教育委員会で行われているような第三者による評価制度導入の考えはないか。

また、実施計画を見ると、目標と現実がかけ離れており、目標自体が機能していないように感じる部分があり、早い段階で、目標も含めて見直さなくてはならないと思う。

り、早い段階で、目標も含めて見直さなくてはならないと思う。

答 総務課長 振興計画審議会では、事業の改廃にはつながらないので、どのような方法がいいか検討していく。

問 人口減少問題に重点的に取り組んでいくとのことだが、現時点で具体的に決まっている内容はありますか。

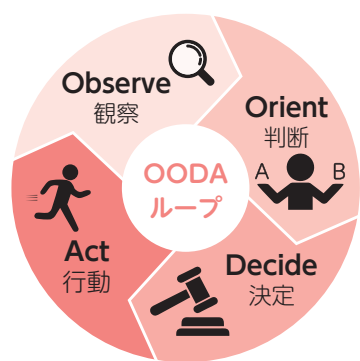
答 町長 まだ具体的ではないが、人口減少への対応については県にも相談している。これからは課を超えた総合政策が必要だと考えている。

問 一担当部署だけで対処療法的には解決できないので、広い視点を持って課を超えた取り組みが必要である。来年度以降、組織編成も含め形にしていってほしい。

振興計画はPDCAサイクルを基に運用されている

が、近年は行OODA（ウーダ）ループという考え方もある。人口減少を含め状況が急速に変化していることを考えると、PDCAサイクルだけでは不十分な部分もあると思うが、こういった考え方を取り入れる考えはあるのか。

答 総務課長 長年PDCAサイクルでやってきており、OODAループについてはわからないところがある。ただ、時代の変化に対応するには、こういった現状把握も必要と思う。今後そのような考え方の情報提供もしつつ、自分たちで冷静に判断して取り組み体制を取りたい。



働きやすい職場 環境、組織編成

問

職員の皆さんが、日々懸命に業務に当たられていることは十分承知しており、感謝しているが、この度の不祥事、及び最近の職員の離職から、職員が働きやすい環境なのか不安を覚える。価値観が多様化し、仕事に求めることも様々だと思うが、町民サービスの観点から、職員が働きやすい環境であることが大変重要である。職員がより働きやすく、やりがいを持って業務に取り組めるよう、町が取り組んでいることはあるのか。

答

町長 年度当初に各課の課長が中心となって業務配分し、円滑な業務遂行を目指している。加えて、

町民生活を支える業務であることを認識し、日々取り組んでもらっている。

また、人事評価制度を取り入れ、職員が担当業務について年度当初に年間目標を定め、課長面談を行い指導し、年度末には目標の達成度を検証し、自己評価を行い、最終的に私が各課の業務と能力評価を行い、各課長を通して職員に伝えている。担当業務においては、職員が課題や疑問を抱くことが大切であり、それを職員同士や上司とともに共有し、解決に取り組むことが職員のやりがいにつながる。と考えている。

働きやすい環境づくりは役場業務内だけで完結するものではなく、業務において役場内で常に相談ができる体制であったり、課内における支援であったり、何が起こっても組織で対応できるという安心感が必要だと思う。加えて必要なのは、ワーク・ライフ・バランスであり、休暇や有給休暇を

有効に活用していくことも重要であると職員に伝えている。

業務の偏り解消に向けた組織編成の見直しについては、本町はふるさと運動に代表される観光産業を主とした町振興を進めており、担当部署では新たな事業展開をしなくてはならず業務が増えている。外部委託することもできず、職員が全て担当しているのが現状である。組織再編のみでは解決できないため、委託可能

時間外勤務実績表（令和5年度）

課名	課員数	時間外勤務 時間数合計 (h)	一人 平均 (h)	人 月均 1か 平 (h)
出納室	1	50	50	4
総務課	6	914	152	13
町民課	10	1,086	109	9
地域政策課	5	1,600	320	27
生活工芸館	2	127	64	5
産業建設課	5	988	198	16
生涯学習課	2	449	225	19
交流センター	2	115	58	5
三島保育所	3	333	111	9

令和5年1月～12月 有給休暇取得日数

課名	課員数	取得日数(日)	取得日数平均 (日)
議会	1	12.8	12.8
出納室	2	23.5	11.8
総務課	6	66.5	11.1
町民課	11	150.1	13.6
地域政策課	5	17.9	3.6
生活工芸館	2	16.3	8.2
特命担当課	1	19.7	19.7
産業建設課	6	63.6	10.6
生涯学習課	3	33.7	11.2
交流センター	2	4.9	2.5

な業務に関しては外注し、形骸化している業務の改廃によってこの状況を変えていくしかなく、組織として取り組んでいく。

問

超過勤務の状況、有給休暇の取得状況は。

答

総務課長 表の通り。

偏りが想定していた以上にある。この現状について、どう対応していくのか。

総務課長 定期的な人事異動や、課長から有給を取得するよう指導している。

問

不祥事の件は、そもそも超過勤務のつけ方に不服があったという話だが、どのような仕組みで超過勤務がつけられ、そのときは何が問題だったのか。

答

副町長 確かに時間外手当が、本人と周りの職員、課長、係長との認識のずれがあり、不満だった

令和7年度予算 編成における重 点事業



青木 喜章 議員

問

1 令和7年度予算重点事業の取り組み

- ①人口減少対策について
- ②テレサテン歌碑建立について
- ③道の駅の利用向上策について

ついて

2 令和7年度以降は、「箱物」から「人」への投資を考えてはどうか。

- ①各年代別の方へのきめ

細やかな支援体制について

②地域おこし協力隊や生活工芸アカデミー生が定住できる支援体制について。

3 ふるさと荘の改築の検討について

答

町長 1ー①特別町民との対話ができる仕組み、構築状況は「ふるさと運動50周年記念事業ウェブサイト」構築業務を進めて

場ゆえ、例えば町長であるとか副町長であるとか上役の方々が職員ともつと密にコミュニケーションを取ってもよいのではないかという意見も聞かれるが、その点についてどう思うか。

という話があった。仕組みとしては「今日は何時から何時までやります」と係長、課長、町長の決裁を受け、本人の意思確認後、お互いの認識の上で仕事をしている。早く終わったり、もったなかった際は、後ほど調整している。

問

課内での相談支援体制は万全ということだが、課内で相談しにくい場合の相談体制はどうなっているのか。そのことを職員は知っているのか。

答

総務課長 総務課、私という形になるが、明確な規定にはなっておらず、職員が知っているか疑問なところもあるが、そのような体制を取っていきたい。

問

かつては地元出身者が多く、元々の関係性があつたと思うが、今は町外の方も多く、課を越えてのコミュニケーションも難しい部分もあると思うので、相談体制について周知してほしい。

町民の中には、小さい職

答

副町長 副町長席の前に出勤簿があり挨拶しながら、何かあつたときには声がけをしている。構えた上司として接しているつもりはなく、話づらい人ではないと職員には伝わっていると思う。

提言

実際若い方々が、町長や副町長と気さくに話すのは難しいかもしれないが、例えば遅く残っている職員にねぎらいの言葉をかけるといったことから、職員もやりがいを感じられることもあると思うので、ぜひ声かけをしてほしい。

また、超過勤務手当を含め人件費は税金であり、色々な状況にあるとは思いますが、終わらない業務量というのはやはり問題であり、限りある時間、予算でできるように、また誰もが対応で

きる体制にするためにも、事業の見直しを進めてほしい。本町の特長として、行政主導の長い歴史があつて、業務委託できない現実もあると思うが、行政主体で全てをしていくことはできないと思うので、民間がやりたいと思っていることを行政がサポートしていく仕組みを整えてほしい。

おり、来年2月完成を目指して取り組んでいる。多様性のある協働した地域づくりに努める。

1ー② 寄附額は78名の方から538万5千円。工事請負費が1千760万円、過疎債1千200万円を利用とした場合、町の負担額は381万5千円。
宿泊による経済効果は建
築から10年後の令和15年度には累積効果として541万円を見込んでいる。
今後の取組としては、日本で唯一のテレサ・テンゆかりの地として継続した交流活動と、情報発信により国内外のファンの方々が交流人口、関係人口として地域活性化につながるように努める。



伝統工芸士から技術を学ぶ生活工芸アカデミー生

1ー③ 農産物の少なさや、道の駅の特徴を生かし切れていないなどの意見をいただいております。町では農産物の品種や生産量のほかに、只見線コーナーの充実や館内レイアウトの変更などについて産直・こまなかせや道の駅と協議している。地元農産物の充実に取り組み、さらなる売上げの増加による農家取得の向上と、町の魅力発信に努める。

2ー① 第5次振興計画

策定時において人口減少対策、地方創生の推進として重点プロジェクトを定め、目標達成のための具体的な施策により様々な事業を進めていく。

子育て支援では保護者の負担の軽減、町民の方々の健康づくりにおいては健康長寿プラス10など様々な事業に取組、また高齢者支援にもつなげていく。

2ー② 地域おこし協力隊や生活工芸アカデミー生

については、移住に向けた課題などを議論している。生活しやすい環境の点では、三島町に残りたいと希望される方が多いので、どのように三島町で生活できるかを検討する。

3 ふるさと荘の改築については、施設及び設備の経年劣化に伴い度重なる修繕工事を実施するなど、毎年多額の維持管理費を要している状況にある。改築に向けた検討として桐の里倶楽部や物産館などの周辺施設一体となった整備計画や建築に係る財源を必要とすることから修繕工事の状況を踏まえつつ、今後の町全体の建設計画を見定めながら進める。

再質問

問 ①人口対策としての結婚への支援について伺う。

②修学旅行の経費を全額、町で補助できないか伺う。
③地域おこし協力隊や生活工芸アカデミーの応募がな

ぜないのか伺う。
④道の駅の活性化について伺う。

答 生涯学習課長 ①「はぴ福ナビ」、マツチングを行うサイトへの登録の支援は行っているが登録者はいない。また、交流事業を実施し、若い世代の方が参加しやすい体制や近隣町村と連携した事業展開を検討したい。

答 教育長 ②財政担当と協議し判断したい。

答 地域政策課長 ③民間企業を含め各地で人員不足に悩まされている。他地域との比較において三島町が選ばれるようにしたい。そのためには、町ホームページの募集、首都圏等でのイベントにより多くの人への情報提供に力を入れたい。

④道の駅、産直こまなかせ、町の三者協議を行っている。内容は農産物の充実、只見線コーナーの充実、館内レイアウト等である。今後も来場者が利用しやすい

施設、商品がより魅力的に映るようなレイアウトを協議し、よりよい道の駅を目指したい。

職員のコンプライアンス研修

問 職員のコンプライアンス研修の実施状況を伺う。

答 町長 倫理やハラスメントに関する研修は次年度以降定期的に開催する予定である。成果が上がるよう、日々の業務で少しでも町民の方が変わったと思っていただけのような取り組みたい。

再質問

問 全職員に対してのハラスメントに関するアンケート調査は行わないのか。

答 総務課長 検討したい。



河越 昭利 議員

町職員不祥事及び懲戒処分について

問 9月13日に行われた公表の方法について町民にしっかりと説明するその場所や時間が必要だったと感じる。

町長の考えを伺う。

答 町長 本町公表基準に沿って、報道機関への公表と同時に町ホームページの掲載、発表後の問合せの対応をすることで確認し、9月13日定例議会最終日に本会議場において不祥事概要説明と、給与減額を提案、議決いただき、議会終了後、各報道機関へ周知をした。公表の夕方にテレビ放送等、翌日新聞掲載され、町民にも周知の事実となった。翌日は閉庁日であったことから、

ら、副町長が待機し対応に当たったが、町民からの問合せはなかった。

地区座談会では、今回の不祥事について質問、意見があった地区は5地区で、できる限りの対応をした。

問 町ホームページに記載されているこの不祥事に関する説明について町民から疑問があった。聞き取り調査や職員の分限及び懲戒に関する審査会は第三者が入って行うものなのか伺う。

答 副町長 職員の分限及び懲戒に関する審査会については、設置要綱を定めてあり、委員長は副町長、副委員長は教育長、課長が委員に当たる。第三者は含まれていない。

問 動機について、時間外のことに関して不満があったとしている。時間外手当以外の不満や悩みなどそのほかの理由はなかったのか。

答 副町長 聞き取りした中ではそれが動機だと確認している。

問 被処分者が主張する配置箇所での物品確認を行ったが確認できず、とあるが本人が主張した場所はどこを示していたのか。

答 副町長 公表基準があるため施設名については公表しない。

問 伝票処理上は支払いは完了しているが、物品未納の金額がある。返還されたのか。また、返還された金額は幾らだったのか。

答 副町長 130万円程度あったが、すぐに返金された。

問 このような業務上不適切な処理が8年間にもわたって行われていた。その間業者側からの連絡がないということとは、役場内でこのような業務処理が普通に行われていたと考えるべきでは。

答 副町長 基本的にはありえません。

問 町長、副町長はじめ関係の職員も減給、懲戒処分が下っている。町民もこれ以上の処分を望んでいるわけではない。内部調査だけではなく第三者の目で調査をし、全てを明らかに

する。これが一番いい方法だと思っている。冒頭で刑事告訴はしないと話があったが、考えは変わらないのか。

答 町長 この決断を下すのに非常に悩んだが、一度出した決断のため、考えを改めることはない。



令和6年11月28日、今年で6回目となる「三島町次世代の議会」が開催され、今年も三島中学校3年生と三島小学校6年生が議員として、5年生は傍聴者として参加しました。

総合学習で学んだ町づくりに関することを、小・中学生の視点でグループごとにまとめ、代表者4名が議員として質問・提言を行いました。

実際の議会と変わらぬ緊張感の中、町当局と将来の三島町について真剣な議論がなされました。



議長 齋藤翔子さん



三島町 次世代の議会

～私たちの未来の三島町のために～

三島町の観光について



1番 大竹 薫子 議員

問

三島町は自然を活かした観光資源に恵まれており、多くの人が県内外から訪れます。只見川橋梁は多くのマスコミに取り上げられ、鉄道ファンのみならず、たくさんの観光客が訪れる場所になっています。また、美坂高原においては大自然の中でのキャンプやスターウオッチングなどのイベントも行われています。

三島町は山に囲まれた自然豊かな場所ですが、今後さらに有効活用するためには、様々な工夫が必要であり、子供たちが自然の中で思いっきり遊べるような施設などがあれば、子供連れの家族が何度でも訪れてくれるようになるのではないかと考えます。

また、「からんころん」には海

外からの観光客も来ていると聞いています。今、日本では外国人観光客が多数来ており、今年度の訪日外国人は過去最高になると予想されています。そこで、外国人も三島町を訪れやすいように、韓国語や中国語などの案内板があると便利なのではないでしょうか。

最近の海外からの観光客は、東京、京都、奈良などの一般的な観光地から、日本のより深い文化を求めていると聞いています。

そこで三島町の観光について、2点お伺いします。

①自然を活かした観光施設、特に子供連れの家族が活用できるような施設についてのお考えをお聞かせください。

②広く海外からの観光客が三島町を訪れるために何かお考えはありますか、お聞かせください。

答

副町長

①子供連れの家族がよく利用する施設としては、一般的にはテーマパークや遊園地などがイメージされますが、三島町においてはこれらの施設整備は土地面積上難しいと考えます。こ

のため、「ないものを数えるのではなく、あるものを最大限に生かす」ことが必要であり、豊かな自然環境や地域資源を活かした施設整備が必要です。

自然や地域資源を活かした観光施設としては、美坂高原や温泉施設、自然素材を用いた生活工芸を体験できる生活工芸館、第一橋梁ビューポイントがある道の駅みしま宿などがあります。

子供連れが利用できる観光施設としては美坂高原があり、令和4年からは「星空ヨガ」や「スターウォッチングツアー」のほか、お盆の時期に帰省された家族や町民を対象にした「みさかDEあそび！」の開催など、イベント時のキャンプ利用としても開放しています。来園者数は年々増加しており、今年は1千人を超えました。

この美坂高原の秘境感と星空を活かしたイベント及び常時利用可能なキャンプ場としての整備やニーズに応じた施設を充実させることにより、さらなる観光客を迎えられるとの可能性を感じています。

また、一つの施設だけでなく、美坂高原と生活工芸館でのものづくり体験など、ライフスタイルに

合わせたモデルコースの提案によって、三島町を訪れた方が楽しみ、また来たいと思ってもらえるような取り組みを考えていきます。

②国別では、圧倒的に台湾、次に香港、中国、東南アジアとなっており、ヨーロッパやアメリカなどの訪問者は少ないです。

台湾からの観光客が多い理由としては、地理的に日本に近いことに加え、福島空港と台湾を結ぶ定期チャーター便の運航が考えられます。このことから、広く海外に向けてPRするよりも、台湾や香港を含む中国大陆の方をターゲットとして絞ることで、より多くの観光客が期待されます。

また11月8日には、会津宮下駅前でテレサ・テン歌碑建設の式典が開催され、台湾や上海などから多くのファンが参加され、今後テレサ・テンさんを通じた観光交流を拡大していきたいと考えています。

さらに台湾とは、ものづくりの交流として、国立台湾工芸研究開発センターと協定を結んでおり、工人まつりでの工芸品の出品や研修生の受入れを行っています。今後は、外国語版のパンフレット作

成や教育分野での連携や交流を検討するなど様々な事業展開により関係性を深めるとともに、中国語などの案内板についても検討していきます。

加えて、虫送りやサイノカミ、鳥追いなどの伝統行事、さらには2500年続く自然素材を用いた生活工芸としての編み組細工技術などについても、情報発信を強化し、インフルエンサーの活用や旅行雑誌を通じて町の魅力を広く紹介することで、来町者の増加を目指していきます。



松原地区鳥追い

再質問

問

三島町は、少ない人口、豊かな自然、古くから伝わる伝統行事や文化、温かい気持ちを持つた町民など、多くの特色のある町です。少ない町民がお互いに助け合いながら、自然と共に調和した生活を送り、伝統的な行事や文化を大切にしながら生きている今の姿こそ、三島町の個性ではないでしょうか。その個性を形づくる住民こそが一番大切であると思います。三島町の町民が、この町で生き生きと生活し、誇りに思えるような気持ちになることを何かお考えですか。

答

総務課長 町民の生き生き

とした生活を実現するためには、町民の皆様がそれぞれの方法で楽しく生活することが重要です。そして、行政はその機会を提供することが役割と考えています。

町の特色としては、豊かな自然や伝統行事、文化、町民の温かさを挙げ、また『少ない人口』という負のイメージを、大竹議員は、特色としてのキーワードとして前向きに捉えることで新たな方向性を見出すヒントとなりました。これらを生かした町づくりを基本に進



左：8番 二瓶 晴 議員

右：9番 五十嵐 悠月 議員

めています。

また、今年初めて開催された三島町きずなスポーツフェスティバルでは、お年寄りから保育所児童まで、皆さんで楽しく開催でき、特に中学生の皆さんが一生懸命、準備、運営に当たりました。このイベントが町民の思い出や誇りにつながることを期待しています。

現在、町づくりの基本である振興計画、第5次の振興計画の策定を目指して町民アンケートを行っています。大竹議員からの提案や町民の意見を含め、町民が誇りを持てるふるさとを目指した町づくりを進めていくことが行政の使命です。

点在する三島町のよさをつなぎ、 三島町のよさをPRするための取組



2番 布川 琉生 議員

問 第5次三島町振興計画にある観光客や移住者を増やすためには、三島町のよさを点から線へつないでいくとともに、三島町のよさをPRすることが大切だと思います。町として、どのようなPRや取り組みを行っているのですか。

答 副町長 令和2年に実施した町民アンケートでは、町の魅力や誇れるものとして、「編み組細工など伝統工芸技術」という回答が最も多く、次に「山や川、温泉が身近にある自然環境や観光資源」、そして「地域に根づく生活文化や伝統行事」という結果となりました。これらの魅力を広めるために、町はイベント開催やパン

フレット、SNSを通じた情報発信を行っており、特に6月の工人まつりは毎年1万人以上の来場者を迎えており、生活工芸技術を学ぶ「生活工芸アカデミー」などの体験イベントも実施しています。

また、首都圏に住む特別町民の方には月に一度広報紙やイベント情報を送付するなど、町づくりの支援を促しています。こうした取り組みにより、観光客や移住者を増やし、地域住民が元気に過ごせる町づくりを目指していきます。

再質問

問 私たちが三島小まつりで発表したように、三島町には自慢できる宝物がたくさんあると思います。観光客が、一つの観光スポットだけではなく、様々な場所に足を運んでみたくなるような取り組みが必要です。そのためには、気軽に桐細工や伝統工芸品に親しむきっかけづくりとして、各スポットにガチャポンを設置するのはいかがでしょうか。ガチャポンに

は、私たち小学生が作ったアイテムや編み組細工のストラップ、また購入者が自分でやすりをかけて仕上げる桐細工などを入れたりするのもよいと思います。

次に空き家を利用して、観光客や町民が気軽に立ち寄ることができる新しい施設と貸別荘を造るのはいかがでしょうか。施設では、ものづくり体験や特産品の購入、休憩などができ、また、ものづくり等の体験をパックにした貸別荘は長期滞在が可能です。編み組細工やハイキング、絶景の撮影など、三島ならではの生活を存分に体験することが、リピーターや移住者の獲得につながると考えます。

また、三島町の良さをPRする方法として、町のSNSアカウントを作成するのはいかがでしょうか。三島小・中学校の生徒がふるさと学習で得た写真や新聞、動画を投稿し、地域住民もそれぞれの視点で町の良さを発信します。また、三島町を訪れた観光客にも「#三島町」のハッシュタグを用いて投稿してもらい、より多くの人々に町の魅力を発信していただくのです。加えて、桐子ちゃんに代わる、新しいゆるキャラのマス



アイデアを分かりやすく示すためパネルを用意しました

コットを作成し、SNSの発信やイベントのPRに活用するアイデアもあります。いかがでしょうか。

答 地域政策課長 各スポットへのガチャポンの設置は、大変いいアイデアだと思います。このすばらしいアイデアを実現するための具体的な方策を検討するため、皆さんの意見を参考にさせていただきます。

新しい施設を建設するのではなく、空き家を利用することは評価できますが、貸別荘の運営に関する人員不足などの課題が挙げられます。このため、町の魅力を広めながら移住者を増やし、空き家を様々な目的で活用できるよう努め

問 三島町も少子高齢化の影響で人口の減少が続き、空き家が目立つようになりました。三島町を訪れた人がこの状況を見たらどう思うでしょうか。どんな人が減って、寂れてきている町だなど感じるのではないのでしょうか。



3番 秦 聖之助 議員

三島町の空き家について

最近、大都市から田舎の町に移住する人が増えています。自然豊かな三島町にとって移住者を獲得するチャンスです。しかし、簡単に移住する人が増えるとは考えられません。そこで、空き家民泊などで試しに三島町に宿泊してもらうのはどうでしょうか。例えば、三島町の郷土料理や民芸品の制作を通じて、三島町での生活を体験してもらいたいと思います。その中で、地域住民との交流が生まれれば、人と人とのつながりも出てくると思います。三島町の人

ていきます。

町の総合的な情報を発信する公式アカウントは存在しませんが、生活工芸館や観光協会などでは、観光情報を中心としたイベントをSNSアカウントで発信しています。

町民や学生による視点からの魅力の発信は大変いい案ですが、投稿人数の増加に伴うルール作りや

内容の定期更新が必要となります。今後は、LINEやX(旧Twitter)などの媒体を通じて、町の魅力を積極的に発信していく方針です。

また、桐子ちゃんに次ぐ新しいゆるキャラ作成については皆さんに考えていただければ、町としても大変うれしく思います。

答 副町長 今年3月の時点での空き家件数は217件、空き家率約30%となり、およそ3軒に1軒は空き家という状況です。

空き家対策の具体的な取り組みとしては、空き家所有者へのセミナーの実施や管理に関する周知を行い、借りたい、買いたい方を募集する「空き家バンク」への登録のほか、町が主体となって空き家所有者から借り受け、居住に必要な改修を施した上で移住定住希望者に賃貸する「町版サブリース」の推進や、補助制度を継続するな

ん広がるのではないのでしょうか。

また、空き家や使われていない施設を安く提供すれば、そこで新しい事業が行われることも考えられます。それが話題になれば、さらに人を引きつける魅力に変わるのではないのでしょうか。そこで三島町の空き家の現状と今後の対策について説明をお願いします。

また、広く三島町のことを知ってもらうために、YouTubeやSNSなどで三島チャンネルを開設し、若い世代の人たちへの広報活動も大切だと思います。現在どのようにSNSの発信を行っていますか。

ど、住居やシェアオフィス、テレワーク施設などといった個人や民間が主体となった空き家の利活用に取り組んでいます。

また、「移住定住支援員」などの専門員を設置して、移住定住に関する相談や空き家の案内、補助制度の周知や手続に関するアドバイスを行うとともに、空き家に関する制度全般を町ホームページや広報誌等で分かりやすく発信していきます。

さらに、三島町での暮らしを年間を通して体験し、生活工芸技術を習得する「生活工芸アカデミー」や地域協力活動による定住や定着を図ることを目的とした「地域おこし協力隊制度」の活用、カスミソウを作る農家を増やす施策と連携し、仕事と空き家を活用した住居が一体となった暮らしを提案するなど、より一層の空き家対策に努めていきます。

布川議員にもお答えしたとおり、公式SNSやYouTubeアカウントは現時点でないものの、町はホームページで、生活工芸館や観光協会はイベントごとのSNSアカウントにより観光情報を発信しています。

また若い方のテレビ離れが進んでいるので、今後は、みしまテレビで取り上げた情報をYouTubeへ動画投稿することについても研究していきます。

またLINE、X（旧Twitter）など、インフルエンサーを活用した積極的な広報を展開できるような努めていきます。

再質問

問 町の様々なイベントは、いつ、どこで、何をやるかという情報が多くの人に伝わらないと、盛り上がりにも大きく関わってきます。答弁にもあったように、町のホームページに掲載はありますが、閲覧しなければ伝わりません。

そこで、周辺の町村と協力をして、同じようなイベントを共同で広報するのはどうでしょうか。例えば、山開きやウォーキングなど目的別に情報を整理し、会津地方や福島県のホームページに掲載することで、各地域のイベント情報が一目で分かるようにすることで参加者の選択肢の幅が広がると思います。他の町村との共同での広報活動についてどのようにお考えですか。

答 地域政策課長 一つの町村からの情報発信の場合、ホームページの閲覧者が限られることから、多くの人に伝えることは難しいと考えます。そのため他町村や福島県と共同の広報活動、テーマや目的に沿った情報発信が重要であると認識はしています。

現在、会津17町村で構成する極上の会津プロジェクト協議会や奥会津7町村で構成する只見川電源流域振興協議会でのホームページ

や情報誌への掲載、奥会津ビジターセンターでの情報発信、イベント時の新聞や雑誌への掲載など広報活動に努めています。今後の情報発信については、議員の意見を参考に、他町村や福島県との広域的な連携を図り、ホームページやSNS、パンフレットなどの様々な媒体を用いて、多くの方に伝えるような広報活動に取り組んでいきます。

三島町のイベントについて



5番 目黒 はな 議員

フとして参加しました。そこで、疑問が出てきました。来客者のほとんどが中高年だったことです。子供や若い人がいても、それはほとんど町民の方でした。

また、「工人」と名がつきますから、職人が時間と手間をかけて長年の技術を積み重ねて作る商品は、当然値段が高くなるのは分かりますが、若い人には少し手が出にくいのではないのでしょうか。できれば、若い人から高齢者まで、また家族連れの人でも満足できるよ

問

三島町の最大イベント「工人まつり」は、県内外から150店以上のお店が招待され、2万人以上が来町されます。

私は今年、工人まつりにスタッ



左：6番 栗城 花穂 議員
右：7番 鈴木 康生 議員

うな「工人まつり」になつてほしいと思います。そのためには、お店の種類や価格帯を考え、みんなが満足できるようにしていただきたいと思っています。

また、子供向けの体験活動やステージイベントを充実させることで、家族連れが安心して訪れることができる環境づくりが必要かと思ひます。そこで三島町のイベントについて、2点お伺ひします。

①三島町の一大イベントである「工人まつり」を、今後どのような続け、発展させるのでしょうか。

②三島町のイベントで特に力を入れるイベントは何か伺ひします。

答 副町長 ①工人まつりのスタッフとして参加した経験からの質問とのことですが、議員のこ

指摘のとおり、今後多くの方に楽しんでいただくためには、お客様の満足度の向上が大変重要です。そのためには国内や台湾など海外からの多様な工芸品の品ぞろえによる「選ぶ楽しさ」の創出に加えて、模擬店を充実させることによる「食べる楽しみ」や、三島町が加盟している日本で最も美しい村連合加盟団体による「特産品販売」を検討しています。

また、工人まつりと同時開催の「てわっさの里まつり」では、工芸品はもちろん、洋服やアクセサリなど多彩な出店があるほか、「山と木の市場」では、子供も参加できる丸太早切り大会や木工品制作のワークショップの開催され、多くの若い方や家族連れも来場されています。

今後も、家族連れや子供たちが楽しめるような体験イベントとともに、ターゲットに合わせたイベントについて、工人まつり実行委員会の中で引き続き検討し、満足度の向上に努めていきます。

②町の一大イベントである工人まつりに力を入れていくことはもちろん、現在町では「美坂高原の星空」を観光資源として、光の害

が極めて少ない星空保護区の認定に向けて進めています。美坂高原を舞台にした星空観望会やキャンプ場としての利用、広大な草原の中で子供たちが楽しく遊べるようなイベントやニーズに応じた施設整備に力を入れていきます。

再質問

問 私が小学生のとき、「秋の味覚祭」や「おばあちゃんの味」という行事を行っていました。これを町のイベントにするのはいかがでしょうか。「おばあちゃんの味」では、三島町の郷土料理を味わってもらったり、「秋の味覚祭」では、秋に限らず、三島町の新鮮な野菜などを使って、その季節ならではの味覚を楽しむイベントがあっても面白いのではないかと考えます。食のイベントについてお聞かせください。

答 地域政策課長 観光振興において「食」は重要なテーマであり、その中でも郷土料理は、その土地の個性として観光資源の一つとして位置づけられます。旅行では食をメインに観光する方もおり、外国人もその土地ならではの食事を求めるなど、インバウンド



「おばあちゃんの味」で作った料理をみんなで食しました

にもつながると考えております。現在の食のイベントは、工人まつりや文化祭での模擬店出店、星空イベントでの美坂高原マルシェ、三島町、川俣町、伊達市が連携して開催する三大鶏フェスに取り組んでおり、また、地区主催で開催する新そばまつりが挙げられます。

今後の取り組みとしては、議員の意見を参考にさせていただき、郷土料理や旬の地元産食材を用いた「食の充実」や「食べる楽しみ」の創出を図るため、工人まつりや星空イベントなどの既存イベントでの提供のほか、町内飲食店や旅館などでの提供について検討していきます。

議会の主な動き

▶ 2024年11月 ◀

- 2 日(土) 三島町文化祭・三島小まつり
- 5 日(火) 国道400号杉峠期成改良期成同盟会及び主
要地方道会津若松三島線大谷工区改良促進
期成同盟会福島県要望活動（福島市）
- 7 日(木) テレサ・テン歌碑建立に伴う交流会
- 8 日(金) テレサ・テン歌碑除幕式
会津鉄道(株)及び野岩鉄道(株)次期経営計画説
明会
- 12 日(火) 両沼地方町村議会議長会中央要望活動
(東京都)
- 13 日(水) 全国町村議会議長会総会・中央研修
(東京都)
- ふくしま駅伝「希望ふくしまチーム」壮行会
- 14 日(木) 令和6年度事業定期監査（～15日）
- 17 日(日) ふくしま駅伝（福島市）
- 18 日(月) 全国過疎地域連盟総会（東京都）
- 21 日(木) 会津総合開発協議会臨時総会（会津若松市）
- 27 日(水) 群馬県上野村議会行政視察のため来庁
- 28 日(木) 議会全員協議会
三島町次世代の議会

▶ 2024年12月 ◀

- 1 日(日) 県道滝谷松原線松原バイパス中心杭設置式
- 2 日(月) 議会運営委員会
- 7 日(土) 三島保育所発表会
- 11 日(水) 教育施設訪問
- 12 日(木) 第4回議会定例会（～13日）
- 25 日(水) 三島町史編さん委員会
- 26 日(木) 会津若松地方広域町村圏整備組合議会臨時
会（会津若松市）

▶ 2025年1月 ◀

- 5 日(日) 三島町消防団出初式
- 6 日(月) 新年祝賀会・自治功労表彰式
- 10 日(金) 月例議会全員協議会
- 15 日(水) 会津総合開発協議会講演会（会津若松市）
- 27 日(月) 第1回議会臨時会
議会運営委員会
議会広報編集委員会

議会に傍聴においでください

3月議会は**3月6日(木)**に開会予定です。

詳しくは町のホームページ等でお知らせいたします。

編集後記

今年も暖冬かと思っていたところ、1月9日、10日の大雪には大変苦労させられました。豪雪対策本部が設置され、倒木により通行止めも発生しました。大雪を始め災害はいつ発生するかわかりません。日頃の備えをお願い致します。

今、当町がもっとも重要な問題として取り組むべき課題は人口減少問題です。この問題は当町だけのことでなく、日本全体の問題です。各市町村がそれぞれに知恵を絞り、取り組んでいます。しかし何かをしなければなりません。町として議会さらには町民の皆様の色々な声が町の継続に繋がります。

議会の様子は議会日より、三島テレビ等でお知らせしています。昨年から新しい議員構成で議会運営が進められています。町民の皆様の色々な声を、更に、町・議会に届けて頂きますようお願い致します。

（青木喜章）

議会広報編集委員会

編集委員長 大竹 克昌
編集副委員長 菅家 三吉
編集委員 青木 喜章
河越 昭利

吉垣絵梨子